

アイヌ語静内方言の *kane an*、*wa an* と状態性動詞との共起について

吉川 佳見

キーワード：アイヌ語、静内方言、アスペクト

1. はじめに

アイヌ語諸方言において、「接続助詞＋存在動詞 *an* (複数形 *oka*)」構文がアスペクト的な意味を表す場合があることは、既にさまざまな記述によって指摘されている。本稿筆者は吉川(2021)において、沙流・千歳方言における「接続助詞＋存在動詞 *an* (複数形 *oka*)」のアスペクト形式の研究を行なったが、その他の方言については言及していない。そこで今回、アイヌ語静内方言の *kane an* (複数形 *kane oka*)、*wa an* (複数形 *wa oka*)¹を取り上げ、特に状態性動詞と共起した場合の現象について考察を試みる。²

2. 先行研究—「接続助詞＋存在動詞」構文によるアスペクト的意味の表現について

まず、沙流方言と千歳方言におけるアスペクトについての記述から参照しておきたい。沙流・千歳方言では、アスペクトの意味を表わす構文の代表的なものとして、*kor an* と *wa an* が挙げられてきた。まず沙流方言の接続助詞 *kor* は、「～しながら、～するとき」というように、2つ事象の同時進行を表す(田村 1988 : 55)。また、接続助詞 *wa* は、「二つの動詞句をつないで一まとまりのことがらとしてまとめる働き(田村 1996 : 821)」をし、「～して」と訳されることが多い。千歳方言の *kor* や *wa* も、沙流方言と同様である。この *kor* や *wa* のあとに、動詞 *an* 「ある、いる、なる」が後続したものが *kor an*、*wa an* であり、基本的に「動詞＋*kor an*」は動作の継続または変化の進行の過程、「動詞＋*wa an*」は変化の結果継続を表すとされている(中川 1981、佐藤 2006 など)。また、*kor an* は習慣的事態を表すこともある。*kor an*、*wa an* は、日本語標準語では「～ている」(*wa an* の場合は「～ている／～てある」と訳されることがしばしばある)。

(1) *kusta hunna tek suyesuye kor an.*

対岸で 誰か 手 ～を振る て いる.SG

対岸で誰かが手を振っている

(佐藤 2006 : 53)

¹ 以下、特にことわりの無い限り、*kane an*、*wa an* の形で代表させる。

² アイヌ語の表記は現在使用されている表記方法にあわせて改変したところがある。また、日本語の表記も現代仮名遣いへ書き換えた。例文のグロスと本稿筆者が付した。例文の日本語訳は原典通りとしたが、文脈理解のため、一部、必要に応じて<>付きで補足した。アイヌ語例文の下線は筆者が付した。

(2) nen ka soy ta ek wa an.

誰 か 外 に 来る.SG て いる.SG

誰か外に来ている

(中川 1981 : 132)

しかし、こうした対応は kor an、wa an のとる動詞が「非状態性動詞」の場合であり、「状態性動詞」の場合はアスペクト的意味が異なる。アスペクトという観点から分類した場合、アイヌ語の動詞は「状態性動詞」と「非状態性動詞」とに大別される(知里 1973[1942]、中川 1981)。中川(1981)によると、状態性動詞は、pirka 「良い」、poro 「大きい」等いわゆる日本語の形容詞にあたるものや、eraman 「わかる、知っている」、an 「ある、いる、なる」、ne 「～である、～になる」などの動詞であり、「単独で<静的な状態>を表わし得る(中川 1981 : 132)」動詞である。一方、非状態性動詞はそれを表し得ない動詞である。状態性動詞は、状態を表す場合と変化を表す場合があり、例えば poro 「大きい」であれば、poro 「大きくなる」という意味にもなる(例(3)(4))。

(3) teeta wano tan pet poro ruwe ne.

昔 から この川 大きい こと COP

昔からこの川は大きい(水が多い)

(中川・中本 2004 : 41)

(4) apto as wa nisapno pet poro ruwe ne.

雨 降る て 急に 川 大きい こと COP

雨が降って急に川が大きくなった(水かさが増した)

(中川・中本 2004 : 41)

沙流・千歳方言では、例(5)のように「状態性動詞+kor an」が変化の進行の過程を表すことがあるが、その限りではなく、例(6)のように単なる状態を表すこともある。後者の場合、kor an はアスペクト形式として機能していないことになり、動詞単独の場合との対立が無くなる。(吉川 2021 : 48-50)

(5) pet poro kor an.

川 大きい て いる.SG

川が増水している

(佐藤 2007 : 44)

(6) a=unuhu ka ray wa isam ora

4.A=母 も 死ぬて いない それから

a=onaha patek SUMIYAKI ne kor an wa

4.A=父 だけ 炭焼き COP て いる.SG て

お母さんも死んでしまって、いなくて、

お父さんだけで、炭焼きをしていて<lit. *炭焼きであっていて>

(田村 1985 : 8)

「状態性動詞+wa an」は、例(7)のように変化の結果継続を表すこともあるが、例(8)のように単なる状態を表すこともある。kor an のケースと同様、後者の場合には、wa an はアスペクト形式として機能していないことになる。(吉川 2021 : 52,53)。

(7) tane kuca okari ne yakka mun ri wa an hi kusu

今 狩小屋 のまわり COP でも 草 高いて ある こと ので

今は狩小屋のまわりであっても草が伸びていた<lit. 高くなっていた>ので

(アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ : C0237UT_35301AP)

(8) aynu opitta honihi kor wa okay pe ne wa.

人間 皆 腹 ~を持つ て いる.PL もの COP FIN

‘Human beings all have a belly.’

(Sato1997 : 150)

例(6)や(8)のような、アスペクト的意味が見いだせない kor an や wa an の使用については、吉川(2021)で取り上げているためそちらを参照されたい。こうした「非アスペクト」的な kor an や wa an は、非状態性動詞でも状態性動詞でも見られる現象である。状態性動詞と kor an、wa an の共起について、簡潔に述べると、沙流・千歳方言においては以下のようにまとめられる。

- ・状態性動詞+kor an…変化の過程、動作の習慣性・多回性、単なる状態
- ・状態性動詞+wa an…変化の結果継続、単なる状態

さて、静内方言においては、これまで kane an、wa an がアスペクト的意味を表わす構文として記述されている。静内方言の接続助詞 kane は「動作が並行している (奥田 1999 : 56)」ことを表す。これは沙流・千歳方言の接続助詞 kor に相当する。また、静内方言の接続助詞 wa は沙流・千歳方言の wa と同様の意味を持つ。そして静内方言の kane an は動作継続 (例(9)) や変化の過程を表し、習慣的な動作 (例(10)) も表す。また、wa

an は変化の結果継続 (例(11)) を表す。(Refsing1986、奥田 1995)³。つまり、静内方言の kane an、wa an は、それぞれ沙流・千歳方言の kor an、wa an にほぼ相当することが、先行記述から分かる。

- (9) nep e=kar kane e=an ruwe ta an?
 何 2SG.A=~をする て 2SG.S=いる.SG こと Q ある.SG
 e=kar pe ye!
 2SG.A=~をする もの ~を言う
 “What are you doing (right now)? Tell me what you do !(lit.:“your do-thing)”
 (Refsing1986 : 196)

- (10) kes to an kor ikarkar=an kane oka=an
 毎日 刺繍をする=4.S て いる.PL=4.S
 毎日私は刺繍をしていた
 (奥田 1995 : 147)

- (11) a=kor nispa ni senpir ta an wa inkar wa an.
 4.A=~を持つ 旦那 木 ~の陰 に いる.SG て 見る て いる.SG
 “My husband was in hiding behind a tree and he was looking around.”
 (Refsing1986 : 194)

静内方言では、kane an や wa an と、状態性動詞との共起についてはこれまで特に報告されていない。以下、静内方言において、kane an、wa an が状態性動詞に後続する用例を挙げ、そのアスペクト的意味について、若干の用例数ではあるが、沙流・千歳方言と比較しながら考察する。

3. 静内方言の kane an、wa an と状態性動詞との共起

3.1. kane an と状態性動詞

今回調査した中で、静内方言の kane an と状態性動詞が共起する例には、以下のようなものが見られた。まず、例(12)(13)(14)は、kane an によって変化の進行過程が表されているという解釈が可能な用例である。この場合の kane an は、沙流・千歳方言の kor an と同義と考えられるだろう。例(12)は、「今まで(も)大きくなってきている (成長しつつある)」、例(13)は「もう大きくなってきている (成長しつつある)」、例(14)は涙の通った跡が「白くなりつつある」と解釈できる。

³ Refsing(1986)では、kane an (複 kane oka) は uncompleted aspect、wa an (複 wa oka) は imperfective aspect と説明されている。

しかし、一方で、この3例は変化の結果継続と解釈することも可能である。この場合、*kane an* は沙流・千歳方言の *wa an* と同義になり、例(12)は「今まで(も) (これほどにも) 大きくなっている」、例(13)は「もう大きくなっている」、例(14)は「白くなっている」となる。

(12) *tane pakno ka poro kane an pe*
 今 まで も 大きい て ある.SG もの
 これほど大きくなった<lit. 大きくてある>ものを

(トウイタク2 : 135)

(13) *nea hekaci tane poro kane an wa apkas wa*
 その男の子 今 大きい て ある.SG て 歩く て
 その男の子がもう大きくなってきて<lit. *大きくてあつて>歩くようになり

(トウイタク2 : 169)

(14) *raytekpake cis a cis a oro nupe kus hi retar kane an hine*
 美しい女性 泣く ITR 泣く ITR ところ 涙 通ること 白い て あるて
 とても美しい娘が、さんざん泣いて
 その頬には涙の跡が白くついていて<lit. *白くてあつて/白くなつていて>

(アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ : C0030OS_34139B/34140A)

さらに、以下の例(15)(16)(17)のように、進行・継続的な意味が無く、動詞単独の場合との対立が見られないものもある。たとえば例(15)であれば、*pon sikuma* 「小さい峰」でも文法的に問題はないのであり、なぜ *kane an* が用いられているのかは不明である。

(15) *pon kane an sikuma ka ta rikip=an konno*
 小さい て ある.SG 峰 上 に 登る.PL=4.S と
小さい峰の上に登ると

(アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ : C0030OS_34139B/34140A)

(16) *kuri kunne kane an okkaypo ka utarpake siktumkonna parse kane*
 姿 黒い て ある.SG 若者 も 立派な男 目つき 燃える て
 色の黒い<lit. *黒くてある>若者のなかでも特に立派な若者、
 目の中が燃えているような人で

(アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ : C0049OS_34158A)

- (17) eattukonnaan poro ruwe takne kane an wenkamuy ne hawan
 なんとまあ 大きい 太い 短い て ある.SG 悪神 COP だった
 何とまあ、大きくて太く短い悪神だったのだ

(アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ : C0068OS_34180AB)

例(12)~(17)を見る限りでは、静内方言の「状態性動詞+kane an」は、変化の進行過程、変化の結果継続、単なる状態を表す場合があるということになる。非状態性動詞の場合、静内方言の kane an は沙流・千歳方言の kor an と同様のアスペクト的意味を持つと考えられるが、状態性動詞の場合は必ずしもこれと並行しない。

むしろ、静内方言の「状態性動詞+kane an」の用例は、沙流・千歳方言の kane an の用法と類似している。kor an、wa an 同様、動詞に後続する「接続助詞+動詞 an」の構文として、沙流・千歳方言にも kane an が存在しているが、これは変化の結果継続を表すことがある一方で、主体の属性(ステータス)を積極的に表し、また、主体の動作・状態を比喩的に表す傾向にあり、脱アスペクト的な現象が見られる形式になっている(吉川 2021 : 70-74)。

たとえば、次の沙流方言の例(18)は「頭を下げる」という変化の結果継続と捉えることも出来るが、ここでの「頭を下げている」という状態は、大きい荷物を背負っていることの比喩的描写となっている。また、沙流方言の例(19)は、pon「小さい」に kane an が後続しているが、小柄であるという男の性質を表している。さらにこの例(19)については、動詞単独の場合との対立が中和している(つまり、pon okkayo「小さい男」としても文法的に問題がない)。

- (18) kimosma hine suy poro sike kohepokiki kane an wa
 山に入る て また 大きい 荷物 ~に頭を下げる て いる.SG て
 iwak hine
 帰る て
 山に行ってまた大きな荷物を背負って頭を下げながら<lit. 荷物に頭を下げていて>
 帰って来ました。

(アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ : C0184KM_34739ABP)

- (19) kewe pon kane an okkayo nukunne okkayo
 体 小さい て ある.SG 男 顔が黒い 男
小柄な男<lit. 体が小さい>、顔色の小黒い男が

(平石 2003 : 20)

これを踏まえて静内方言の例を見ると、進行・継続的な意味がみられない例(15)(16)(17)は、沙流方言の例(19)同様、人・物質の性質を表すものであり、沙流・千歳方言の kane

an の用法と同じものとして考えることができる。

なお、沙流・千歳方言の「非状態性動詞+kane an」の用例には mina kane an 「笑っている」や mi kane an 「着ている」などがよく見られるが、静内方言にもこの用例は一定数みられる。現段階で調査した静内方言の用例は若干数ではあるが、以上のことから、静内方言の kane an は、沙流・千歳方言の kor an と kane an を含む意味範囲を持つと推測される。

3.2. wa an と状態性動詞

静内方言の wa an と状態性動詞が共起する例には、以下のようなものが見られた。まず、例(20)~(23)は、コピュラ動詞 ne 「である、になる」+wa an の例である。

- (20) aynu kotan ta soya kamuy kamuy mataki e=ne wa e=an
 人間 村 に 蜂 神 神 妹 2.A=COP て 2.S=いる.SG
 人間の村の蜂神よ、おまえは妹神ですね。<lit. *おまえは妹神であってある>
 (アイヌ民話 : 134)

- (21) soya kamuy e=ne wa an pe ne a p
 蜂 神 2.A=COP て いる.SG もの COP た だが
 おまえは蜂神なのに<lit. *おまえは蜂神であってある>
 (アイヌ民話 : 146)

- (22) anoka anakne nep ka kamuy okay pe ne hike
 4SG TOP 何 も 神 ある.PL もの COP だが
 ketupe kamuy a=ne wa oka=an hine
 ケトウペ 神 4.A=COP て いる.PL=4.S て
 私は他でもないケトウペ神なのだ。<lit. *ケトウペ神であってある>
 (トウイタク3 : 33)

- (23) aynu ne wa an pe a=tuye yakun
 人間 COP て ある.SG もの 4.A=~を切る なら
 eraykotne ray wa isam nankor pe
 仕方のないことに 死ぬ て 無い だろう もの
 人間であるものが切られたら
 なすすべもなく切られてしまうだろうのに
 (トウイタク4 : 34)

これらは wa an が付かない ne 単独の場合との意味の差異が不明である。つまり、神であ

ることや人間であることはその主体の恒常的な性質を表しており、ここでの **wa an** が変化の結果継続を表しているとはいえない。こうした非アスペクト的な **ne wa an** は沙流・千歳方言においても存在する。

以下の例(24)(25)は、動詞 **an** 「ある、いる、なる」+**wa an** の例である。千歳方言において、**an wa an** は存在の一時性をあらわすという見解があるが、例(24)(25)は一時的な存在とも解釈できるが、必ずしもその限りではない。もともと、**an wa an** と **an** 単独との対立は千歳方言においても明瞭には分かっておらず、静内方言においてもどのような意図で **wa an** が用いられているのか分からない。

(24) **ikia kamuy an wa an ayne**
 その 神 いる.SG て いる.SG あげく
 その神がじっと座っていて<lit. *いていて>ついに

(トウイタク4 : 28)

(25) **inne utar inne sisam oka wa an**
 大勢 人々 大勢 和人 いる.PL て いる.SG
 大勢の人たちが、大勢の和人がいて<lit. *いていて>

(トウイタク4 : 32)

次の例(26)は、いわゆる形容詞的意味をあらわす状態性動詞と **wa an** が共起した例である。これは、時間の影響を受けることのない主体の性質を表しており、恒常的なものである。沙流・千歳方言においても、「形容詞的動詞+**wa an**」が同様の意味を表わす例がある。

(26) **kanna kamuy or ta pon wa an kur macihi ne**
 雷 神 ところに 小さいて ある.SG 人 妻 COP
e=an nankor ari an pe kus
 2.S=いる.SG だろう と ある.SG もので
 雷神のところの下の男の妻<lit. *小さくてある人>に
 なるだろうということになったので

(アイヌ民話 : 146)

以上、静内方言での「状態性動詞+**wa an**」は、沙流・千歳方言での現象と同様、いずれも動詞単独の場合と意味の差異は不明瞭であった。

4. おわりに

今回挙げた用例を見た限りでは、静内方言において、「状態性動詞+kane an」は、変化の進行過程または変化の結果継続を表すことがあるが、動詞単独の場合と意味の差異がほぼ無いものもある。変化の進行過程を表す場合は、沙流・千歳方言の kor an と同様とみることができるが、変化の結果継続と解釈可能な場合、ないしは動詞単独と対立がほぼ無い場合、沙流・千歳方言の kane an の用法と類似している。静内方言における「非状態性動詞+kane an」が、沙流・千歳方言の kor an に相当すると考えられることも併せると、静内方言の kane an は、沙流・千歳方言の kor an と kane an を含む意味範囲を持つと推測される。「状態性動詞+wa an」については、いずれも動詞単独の場合と意味の差異は不明瞭であったが、これについても沙流・千歳方言での現象と似ている。今後、さらに分析を進めたい。

略号

1	1 人称	ITR	反復
2	2 人称	PL	複数
4	4 人称 ※	Q	疑問
=	人称接辞境界	SG	単数
A	他動詞主語または所有者	S	自動詞主語
COP	コピュラ動詞	TOP	主題
FIN	終助詞		

※3 人称はゼロ表示。4 人称は、包括的 1 人称複数、2 人称敬称、不定人称、物語中の叙述者の人称等の用法を持つ。

参考文献、Web サイト

- 奥田統己(1995)「アイヌ語静内方言の接続助詞」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』1, pp.139-159, 北海道立アイヌ民族文化研究センター.
- 佐藤知己(2006)「アイヌ語千歳方言のAspect—kor an、wa an を中心に」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』12, pp.43-67, 北海道立アイヌ民族文化研究センター.
- 佐藤知己(2007)「アイヌ語のAspectと日本語のAspectの対照」『日本語学』26(3), pp.44-52, 明治書院.
- 田村すず子(1985)『アイヌ語音声資料 2—ワテケさんの昔話』早稲田大学語学教育研究所.
- 田村すず子(1988)「アイヌ語」亀井孝, 河野六郎, 千野栄一編『言語学大辞典』1, pp.6-94, 三省堂.
- 中川裕(1981)「Aspect的観点から見たアイヌ語の動詞」『言語学演習 '81』, pp.131-

141, 東京大学文学部言語学研究室.

中川裕・中本ムツ子(2004)『CD エクスプレス アイヌ語』白水社.

平石清隆(2003)『沙流地方のウウェペケレ～上田としの伝承～』

北海道教育庁社会教育部文化課編(1998)『トゥイタク (昔語り)』2, 北海道教育委員会.

北海道教育庁社会教育部文化課編(2000)『トゥイタク (昔語り)』3, 北海道教育委員会.

北海道教育庁社会教育部文化課編(2002)『トゥイタク (昔語り)』4, 北海道教育委員会.

吉川佳見(2021)「アイヌ語における存在型アスペクト形式」(千葉大学人文社会科学研究所
博士論文、近日公開予定)

Refsing, Kirsten. 1986. *The Ainu language : the morphology and syntax of the Shizunai dialect*. Aarhus University Press.

「アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ」, <<https://ainugo.ainu-museum.or.jp/>>.

(2021-1-31 閲覧)

(よしかわ よしみ・千葉大学人文社会科学研究所／国立国語研究所非常勤研究員)